

リーダーとは

—東北未来創造を考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：東北地方にはよく行かれるのですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) 3.11 の東日本大震災から 3 年が経過する中で、東北の復旧・復興を願い「東北未来創造イニシアティブ」という活動に参加しています。
- (2) 3 月 1 日・2 日には、釜石市と大船渡市で開かれた各々の人財育成道場・未来創造塾の卒業式と、第 1 回の大船渡未来創造会議に、経済同友会(東京)からのメンターの一人として参加しました。
- (3) この人財育成道場は、気仙沼市でも開催されました。各々の会場で、事業を拡大・再構築したいという次世代を担う若手事業家や NPO 代表など 10 数名が参加。トーマツ、マッキンゼー、博報堂、日本政策投資銀行、ISL などの専門講師陣 20 数名から 6 か月間にわたって指導を受けました。事業構想策定に向けての個別事業コーチングを受けながら、戦略、マーケティング、経営財務数字と資金調達、リーダーシップをゼロから学びました。第 2 期もスタートの予定です。
- (4) 私は、釜石市と大船渡市で合計 22 名の卒業生から 20 分間ずつビジョン、ミッション、事業目標、顧客と市場、マーケティングの 4P(製品・サービス、価格、流通、販売促進)、組織・運営体制、予想される売り上げと利益計画などを 2 日間にわたってお聞きしました。
また、大船渡市担当のメンターとして、市長や市幹部、市の経済界代表や卒業生を含む市民の皆様と大船渡市の将来について長時間のディスカッションを行いました。

Q：この他にも東北に行くことはあるのですか。

- A：(1) 3 月 7 日(金)には、理事長を務める学校法人 有朋学園 有朋高等学院の卒業式のために福島市へ。
- (2) 3 月 11 日(火)には、全国経済同友会 東日本大震災追悼シンポジウムに参加のために仙台へ。
- (3) 3 月 17 日(月)には、会員である福島経済同友会創立 60 周年式典に参加のために福島市へ。
- (4) 3 月 24 日(月)には、有朋学園 有朋高等学院の理事会のために福島市へ。
- * このように、3 月はほぼ毎週のように出掛けております。

Q：東北復興のポイントは何だと考えますか。

- A：(1) 3.11 から 3 年が経ち、一見立ち直りつつあると思われる東北の被災地ですが、ごく一部の例外を除いて、今後は激しい人口減少に襲われることが目に見えています。今は復旧・復興の仕事が多くて有効求人倍率も高く、人手不足ですが、一連の公共事業が一段落すると激しい景気減退に陥ることは容易に予想されます。
- (2) 景気の減退に伴う雇用の需要不足に超少子化と超高齢化が重なると、高齢者だけが街に残り、若者が激減して市や町、村の財政が破綻するという課題が山積する地域になることが予想されます。
- (3) では、どうしたらよいか。予想される極めて近い未来を直視し、理不尽なこと・不条理から目を背けずに自分でやらなければならないことをよく考え、やり抜く以外にはないと考えます。
- (4) 今回の未来創造塾の卒塾生の皆様は、この 6 か月間、街の大半が根こそぎ流されるという厳しい現実を直視しながら、世界や日本各地からの有難い支援をテコにして、次の世代のためにまずは自らの事業を立て直し、街の未来・地域の発展のために尽くしたいと固く決意をなさいました。
- (5) まずは、一人ひとりが与えられた立場で自覚と高い志をもって、自分のために、自らの企業の社員のために、お客様のお役に立つことを通して事業を立て直し、自らの手で街や地域をつくり出そうと第一歩を踏み出されました。
- (6) 私は、このような一皮むけた人こそがリーダーであると考えます。一人でも多くのリーダーを育て、励ますことが、東北復興のキー・ポイントだと確信いたします。
- (7) 今後は福島復興が日本の将来を決めると考えるべきと私は考えます。
- (8) 福島を含めた東北復興のテーマには、日本や世界が克服すべき最先端の課題が山ほどあります。一つ一つの課題を誠実に解決するプロセスを日本や世界の人たちに見てもらい、一緒に考える機会を提供することが我々の義務と考えます。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様に考えて頂きたいことは何ですか。

- A：(1) 東北復興、とりわけ福島復興を日本の取り組むべき最大の課題の一つと考えた上で、日々の活動に本気で取り組んで頂きたいと思えます。
- (2) 復興に用いている税金をどのように捻出するか。福島第一原発や日本国内の原発をどのようにしたらよいのか。原子力に代わるエネルギーをどのように確保したらよいのか。
- (3) 原発を廃棄したり現状の管理をするのに不可欠な原子力技術者をどのように確保し、どう育成するのか。
- (4) GDP の 2 倍以上の国と地方の借金に加え、超少子高齢化による人口減の中、労働生産年齢や高齢者労働参加率をどう大幅に向上させるか。医療・介護・福祉などを含むサービス産業の労働生産性をどう大幅に向上させ、国や地方の潜在成長率を向上させるか。
- (5) 更には、海外の新興市場への展開を果たし、自らの組織や地域、日本の持続的発展にどう貢献したらよいのか。

(6)これらの難しい課題を他人事と思わず我々ができることに心血を注ぐことがリーダーには求められます。

Q：最後に、リーダーとは何かを考えると参考になる本はありますか。

A：野田智義・金井壽宏著「リーダーシップの旅―見えないものを見る―」光文社新書 No289、光文社 2007 年 2 月 20 日刊とハイケ・ブルック、スマントラ・ゴシャル著、野田智義訳「意志力革命―目的達成への行動プログラム―」(ハーバード・ビジネス・スクール・プレス)ランダムハウス講談社の 2 冊を何回か併読するのが一番と確信いたします。

これに加え、内村鑑三著「後世への最大遺物・デンマーク国の物語」と「代表的日本人」とともに岩波文庫の 2 冊を腰を落着けてお読みになると、リーダーとは何かがイメージできると考えます。

今月お勧めしたい本の最後は、丸山真男著「政治の世界、他十篇」岩波文庫、岩波書店 2014 年 2 月 14 日刊です。幻の名著と言われた丸山先生の「政治の世界」が、丸山真男全集以外でも岩波文庫として再び読めることは有難い限りです。素晴らしい内容ですので、野田先生、内村先生の著書ともども是非御熟読を。